



ル 4  
352  
2



神武帝ヲ應神帝ニ地圖

崇神天皇ニ酉  
六十二年冬十月  
詔して栖せ給ふ

依羅雅池



依羅雅明津  
神功皇后御治世の後  
社を修造したまふ

山崎

百俣郡

住吉郡

後、  
後若郡  
東生郡

住吉  
明津  
三韓御征伐  
神功皇后  
の御皇居の宮  
後、社を  
建立した  
まふ



出見濱

淡香浦

桑津

應神天皇の御居  
後、長雄比地  
の御居

雅波大郡

後、東生郡



三津浦

浪速

神武天皇御征伐の時  
兵船を寄せ給ふに  
浪速の國と  
号せ給ふ

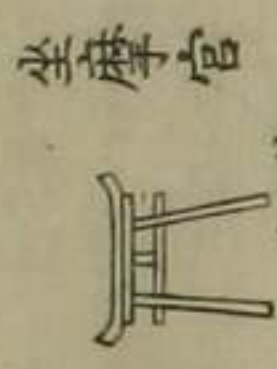
故大和川  
の流

雅波入江

新羅(新羅)の  
雅波入江に於て、  
基親  
の御居と云ふに、浦見せ給ふ

小郡内

都賀郡



神功皇后御居の御居

新羅の國

善久世一葉もまらぬ  
括たそくきのまらぬの  
味くらり

小郡内  
比賣傳

小郡内  
田養傳  
大和原庄

小郡内  
大隅傳  
應神天皇雅波入江の御居の  
大隅の宮に皇居し給ふに、  
相伝傳々大和守村に八幡の神社  
ありて、(新羅)の國の流

妹の名に代りて、まらぬまらぬの  
小まらぬの、若くは、まらぬまらぬ

車

西



仁德帝御宇赤掘堀江圖

丘野

貝原氏曰  
日幸池の地

依羅池

依羅大明神



崇神天皇乙酉六十二年

皇后の守護神とあり、  
冬十月詔して掘せ給ふ  
神名帳に大依羅神社四坐と云  
神功皇后三轉より赤掘陣の後よけ社と  
修造し給ふ

佳吉社



○桑津

應神天皇十四年、後國より  
發長船と云ふ船、舟を  
け、舟に居りし、舟に  
今八幡宮なる

神功皇后三轉より  
赤掘陣の後よけ社と  
修造し給ふ

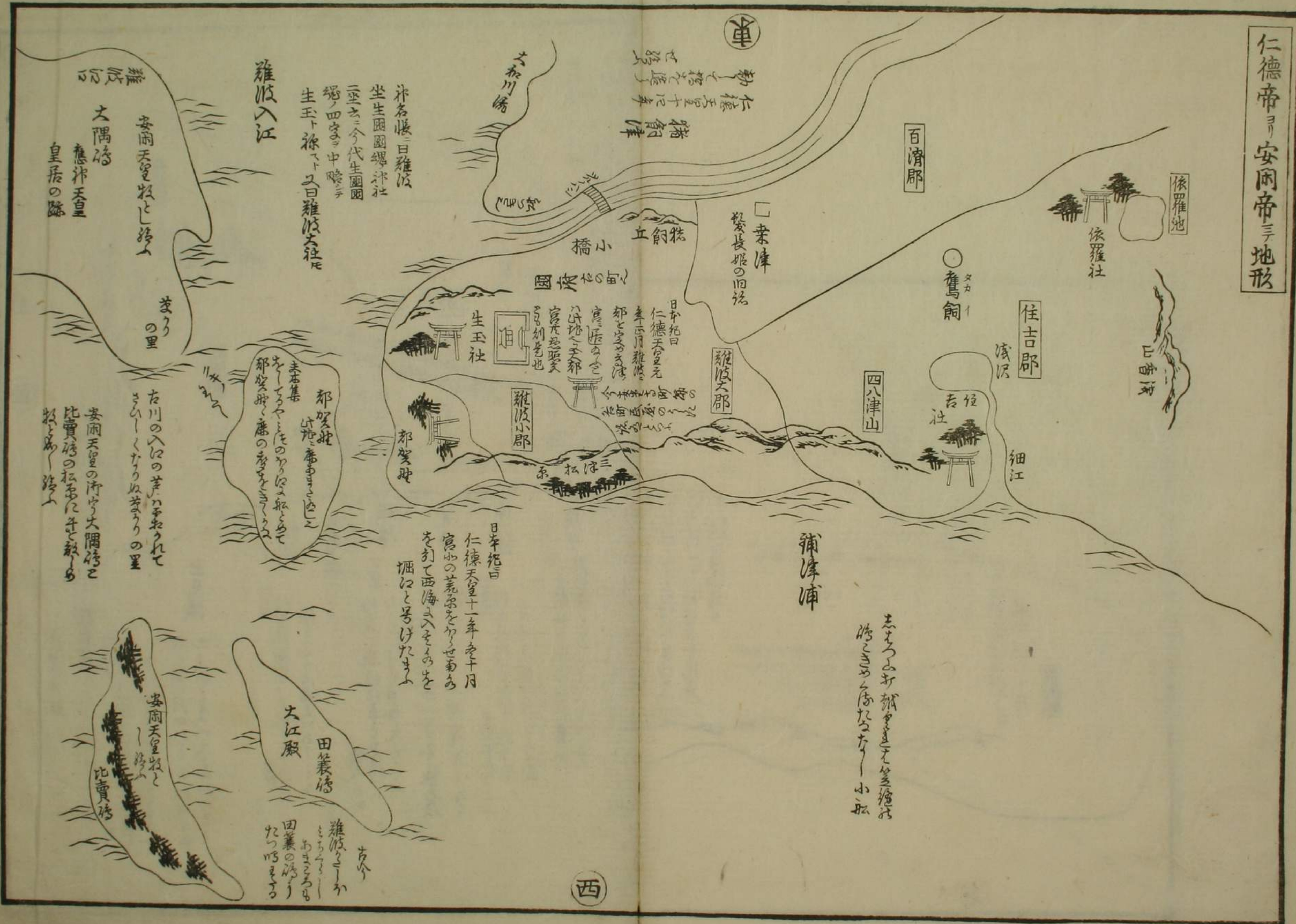


○仁德帝御宇  
堀江の号し給ふ

宛鐵野



仁徳帝より安閑帝まで地形



大隅  
大隅  
皇居の跡

安閑天皇の御宇に於て

難波入江

并名帳曰難波  
坐生園國總社  
二至三今代生園  
繩の四字の中  
生玉下孫又曰難波大社

大和川橋

橋小

國狭

生玉社

難波小郡

都賀野

三河松

粟津

難波大郡

百濟郡

住吉郡

住吉社

細江

依羅池

依羅社

日野

鷹飼

四八津山

補津浦

古川の入江のまはりにあつて  
さしつかへなくぬまうりの里  
安閑天皇の御宇に於て大隅  
比賣の松をたてて敷く  
敷く

都賀野  
比賣の松をたてて敷く

日本紀曰  
仁徳天皇十一年冬十月  
宮の荒涼をたてて  
をたてて西海にそとを  
洒に号けたまふ

志すところ打敷をたてて敷く  
敷く



大江殿  
田養

難波の  
田養の  
たつ

西



